二〇一七年三月二四日

春の鴨孤独なる水尾引きにけり　豆　狸
潮の香すオリーブ園の若葉風　なつき
うららかや前歯の欠けし賓頭盧さん　菜　々
スケッチす樹下の吾らに百千鳥　たか子
渋滞すテールランプの灯の朧　ま　ゆ

二〇一七年三月二三日

花菜風終着駅に降りたてば　宏　虎
春禽の声に膨らむ雑木山　三　刀
囀りや僧は法会の支度中　たか子
湖風のよく通ひくる花菜畑　よし女

二〇一七年三月二二日

梅が枝に傘の触れもす下り坂　こすもす
芽柳に薄みどりなる雨雫　はく子
碧空をあふちし風の花ミモザ　菜　々

二〇一七年三月二一日

泡立ちてしぶく白波豆の花　なつき
聴覚を研ぎ澄まし聞く初音かな　たか子
子供らの搾乳体験牧うらら　こすもす
石垣をさ走る雨や蔦若葉　智恵子

春めくやグラスボートに透けし海　明日香
春疾風美人ポスター剥がさんと　よし女

二〇一七年三月二〇日

花あしび小鳥来て飲む甕の水　三　刀
土筆摘むいよいよ本気モードかな　菜　々
引き潮に攫はれていく落椿　よし女

二〇一七年三月一九日

秒針に白蝶あそぶ花時計　なつき
あるなしの風に溢るる花ミモザ　満　天
旋回しまた旋回し鳥帰る　やよい
耕人は見えずラジオは鳴りしまま　やよい
風光る山のなぞへの滑り台　なつき

二〇一七年三月一八日

梅日和グルメ屋台をジプシーす　はく子
辞す門に一礼したる卒業子　智恵子
店番をしつつ土筆の袴取り　さつき

毎日句会みのる選・二〇一七年三月二六日